

▶**恵那地球塾第1期生 短期留学体験（2019年7月～9月）**

▶**第1期生5名に、たくさん語ってもらいました！**

●（ニュージーランド）3年普通科 後藤 怜生（第二中出身）

出国し、ニュージーランドに着いても、自分が留学する実感がなかったが、ホストファミリーに会って急に緊張した。最初のほうはあまり話すことが出来なかったが、1週間ほどで慣れて、学校でも一緒に過ごす現地の友達もでき、楽しめるようになった。緊張は、してしまうものだが、考えすぎても無駄なので、取りあえず話しかけることを意識できた。自分の英語が間違っているかを気にしすぎることなく、愛想よく、意思が伝えられるかどうか重要だと分かった。

自分の学校には、アウトドアや、リーダーシップなど、実技系の教科が多くあり授業を楽しむことができたが、コミュニケーションも多く取る必要があった。授業でキャンプがあり、ニュージーランドの自然を堪能でき、ニュージーランドらしいことも学べた。大自然の中で、自分たちだけのナビゲーションのため、全てを理解している必要があり、行動力や協調性が必要な環境にいて力になったと思う。

学校には、ニュージーランド人だけでなく、移住してきた人も多く、皆個性的で日本とは全く違う環境の中での生活の仕方を学び、適応能力が必要だと感じた。日本では、異文化に触れる機会が少なく、理解されていないことも多いが、異文化に多く触れ、理解が深まった。違う人種、国籍の人たちが一緒にいても差別などを感じることもなくお互い理解しており、居心地が良かったので自分たち全てがそのようになる良いと思う。そのほかにもこの留学で多くのことを学び、多くのとても貴重な経験ができた。将来、世界に出ていく中で、このことが確実に活かせると思う。

●（ニュージーランド）3年普通科 益田 瞳（泉中出身）

私が、留学をして学んだこと、変化があったことは大きく分けて3つあります。

1つ目は、あんまり英語が達者でなくても相手に伝えることはできる、ということです。はじめの1～2週間は周りが英語だらけの環境に慣れず、まだどこに何があるのかなどの分からないことが沢山あったため現地の人にいろんなことを聞きました。そのときに、英語があんまりできないからと言って黙っていても自然と誰かが助けてくれるわけではありませんでした。だから、できなくても知っている人に聞くことがとても大切でした。地図や、時間割など物を使ったりしゃべり方を変えたりすることで相手に言いたいことを伝えることができました。

2つ目は積極性を持つことができたということです。聞かないと困っていることが伝わらなかつたり、近くに友人やホストがいない状況では、



知っていそうな人にすぐ尋ねました。また、学校では集会後や授業後に次の行事には何が必要なのか、それにはお金がかかるのかといったことを英語の先生や留学生担当の先生に早めに尋ねました。外国にただで英語が上達するわけではないのでなるべく知っている人と話すようにしました。

3つ目は、物を見る目が変わったことです。日本の学校ではほとんどの人が日本人ですが、留学先の学校には様々な国の人がいました。また、髪を染めている人やピアスを開けている人など恵那高にはいないような人がたくさんいました。はじめは、その人たちは怖かったり冷たかったりするのかと思っていましたが話してみるととても優しく親切でした。身をもって人は見た目によらないということを学びました。

日本にいたら学べないようなことを数多く学ぶことができました。毎日がとても新鮮でキラキラしていました。留学して本当に貴重経験ができ良かったと思います。

●（ニュージーランド）3年理数科 今井 陸人（恵那西中出身）



私がこの留学を通して、最も成長したと感じているのは、考えたことを行動に移す力です。私は留学に行って初めて自分一人ではできないことの多さに気づきました。もちろん、留学に行くまえから何度も言われていたことでしたが、体験してみようやく理解しました。私の留学先であるリカトンハイスクールは、ホームステイさせてもらっていた家からはかなり距離があり、基本はバス通学でした。しかし、私がその

道を覚えられたのは学校が始まって3日後で、それまでは、ホームステイ先が同じだった香港からの留学生がいなければ、確実に道に迷っていたでしょう。クライストチャーチはニュージーランドの南島では最大の街ですが、東京のように地下鉄の交通網はありません。代わりにバスがたくさん走っています。バスの種類も黄や緑、赤、青など様々でそれらが決まった道順を走っているの、バスを乗り継げばたいいの場所にはいくことができます。当然バス停の数も多く、これを覚えるのは私にはかなり難しかったです。1つ例をあげましたが、このように自分一人ではできないことがたくさんありました。慣れれば、運転手の人や他の乗客に聞くなどして道がわかるようになってきたのですが、そこに至るまでの間は、何をしても不安で、色んなことを恐れて行動できないことが多かったのです。しかし、一度慣れてしまうと、落ち着いて考えれば、ただ悩んでいても何も始まらないし、やってみなければどうなるかもわからないと、思えるようになりました。考えて、まずは行動に移す。問題があれば、また考える。当たり前のことですが、実際に体験してみると、なかなか大変でした。これは一例に過ぎませんが、他にも同じように感じたことは何回もあり、貴重な体験をすることができました。

私たちの留学が終了して、2か月がたちました。留学に行く前と後で自分がどう変わったのか客観的にはよくわかりません。しかし、日本で暮らしては得られない多くの経



験を得たことは確かです。その経験を今後の生活に活かす、というのはありきたりな言葉ですが、実際にはなかなか難しいと思います。私が留学で得た経験は、私の考え方やあるいは前に述べているような行動力といったものに影響を与えました。それは、私が今まで限られた範囲でしか生活してこなかったからです。何か月か前に「井の中の蛙」というタイトルの講演を聞きましたが、まさにその通りでした。今回の留学で私の中の何かが変わったように、今はまだ知らない世界を知ることによって成長することもあるでしょう。恵那地球塾は木股氏の寄付により設立され、私たちは留学へ行くことができました。その木股氏は私たち恵那高生に世界へ羽ばたいてほしいと願っていました。私はまだほんの少しだけ世界の一部を見てきたにすぎません。だから、今はまだ自分が今できることをして、この先たくさんのことを経験して知ったとき、それを恐れず一歩前に踏み出せるようにしていきたいと思います。

### ●（オーストラリア）3年理数科 丹羽 祐人（付知中出身）

私はオーストラリアへ行って様々なことを経験し、学習してきました。オーストラリアへの入国審査の時、空港の職員から”Hello man, how are you??”と聞かれた時に私は聞き取ることができず、何も言い返すことができませんでした。ホストの家へ向かう車の中での会話が全く成り立たなかったため、私はその時の自分の力を理解し、自信をなくしていました。そんな私を成長させてくれたのは自分を積極的にさせるように強い環境、そして周りの人たちのおかげだと思います。

まず、日本であると聞かされていた学校のバスケットボールのクラブチームがありませんでした。そのため大好きなバスケットボールをするには自分でチームを見つけなければならなくなりました。当然その時の英語力ではまともに話せる訳がなく、とても苦労しましたが、クラブのことで地元の人たちやネイティブの英語と関わる機会の一つとなりました。周りの人たちは私の成長に最も深く関わったと思います。本当に奇跡的な出会いの連続で、わたしは幸せだったと思いました。

よく留学中は「日本語に触れるな」と言われますが、私は日本語ができるオーストラリア人の友人や英語ができる日本人の友人にすごく助けられ、ただの短期留学生ではできないような体験や会話の仕方を、学んだりすることができました。

最後に私は留学で積極性の重要さや、日本で当たり前とされていることが本当にそうなのかと考えられる力を学びました。この力は、どこの国へ行っても、将来職に就いた時も一番重要なものの1つと実感でき、英語力の向上には積極性が最も重要だと分かりました。



私はこれらの経験や人とのつながりを大切に、今後の自分に生かしていきます。

### ●（オーストラリア）3年理数科 河地駿太郎（小泉中出身）



第1期生として留学させていただきましたが、留学の前後で変わったことが複数あります。

まず、第一に、外国に対する認識が変化したことです。外国語を学ぶにあたって、その国の文化や習慣について理解することが大切だということは常々感じていました。インターネットやニュースなどでそれらの情報は知っていましたが、しっかりと理解するには、実際に体験することや経験を積むことが大切です。自分の留学先であるオーストラリアに行き、様々な人とコミュニケーション

をとることで、今まで分からなかったことや知らなかったことを理解することができました。

第二に、自分の英語の聞く力、読む力が向上したことです。留学前に比べると、様々な語句を素早く判断することができるようになったと思います。そんな中で、語彙力の弱さが目立つようになってきたので、単語の暗記の学習をすることで全体的に学力の向上に努めたいです。留学という貴重な経験を若いうちにするのができたので、これからの生活に活かし、日々成長していけるように頑張ります。



＜恵那地球塾 第1期生 短期留学出発直前の様子＞